

次世代に継承すべき沖縄語とは何か (4枚)

2007年9月12日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語を後世に残すなら共通語の中で残したい、という沖縄の人がいます。こういう残し方には筆者は反対で、共通語ではなく、沖縄語として残すのが本来であると思います。共通語に慣れている我々は、知らず知らずのうちに沖縄語を共通語の中で考えてはいないでしょうか。沖縄語の普及のために共通語で書いている筆者は、複雑な思いです。

本稿では、次世代に継承すべき沖縄語とこれに関連する問題について論じます。なお、言葉の本質は音声にあり、文字は言葉の文化性を高めるための道具と考えます。

(音声において)

1、沖縄語の単語や語句を、共通語の中で使うことによって後世に残すという考え方

この考え方は県条例の趣旨にそぐわないし、この考え方で次世代に継承するのは反対です。これは沖縄語が消滅するという前提での考え方です。過去には、沖縄語排斥という大きな流れがありましたから、今でも沖縄語がなくなると信じて、こういう残し方が沖縄語を残す唯一の道と考えるのもやむを得ないと思います。

沖縄語の単語や語句を共通語の中で使うと、沖縄語ではなく共通語になります。

現在、日本語の中に英語などの単語を無闇に混ぜて誇らしげに言う傾向があるのを、筆者は眉をひそめるものですが、翻って共通語の中に沖縄語の単語を多く混ぜることが沖縄語の普及と考えるのは、間違いです。次世代への継承にもつながりません。沖縄語の普及は沖縄語として普及させるべきです。

(文字において)

2、沖縄語の翻訳書法は問題

例えば「予算案」という共通語を沖縄語に翻訳すると「じんぬくばいかた」になると

して、漢字に振り仮名をつけて「^{じんぬくばいかた}予 算 案」と書いてある沖縄語のテキストがあります。「じんぬくばいかた」は音声や仮名書きならよいとしても、漢字の使い方が教育上問題です。思考順序として初めに「じんぬくばいかた」という言葉があって、これを共通語に訳して「予算案」という漢字を当てるにしても、問題は同じです。この書き方は翻訳書法です。

我々は共通語に慣れているため、思考が共通語と沖縄語の間を行き来するのは、やむ

を得ませんが、表記において「^{じんぬくばいかた}予算案」とするのは、沖縄語を共通語の下で考えているもので、好ましくありません。翻訳書法では、翻訳者によって訳し方が違い、漢字も違って規範性なく、学習者を迷わせ、教育には適しません。沖縄語は沖縄語として独自の表記であるべきです。

「^{じんぬくばいかた}じんぬくばいかた」を沖縄語独自に漢字を混ぜて書けば「^{じん くば かた}銭ぬ配い方」と書くのが好ましく、規範性も備わり教育向きです。書法の規範性は教育の根幹に関わる重要なことです。

沖縄語は共通語と密接に関係していますが、共通語の下に位置するものではなく、共通語と対等な一つのまとまった言語です。共通語の文字を使うのは、既存知識を有効に利用するために借りているに過ぎません。

「^{じんぬくばいかた}予算案」と書く方がよいという人は、共通語で理解し易いからと主張します。沖縄語を共通語の中で思考するとそういう理屈になります。共通語への翻訳や説明の便宜は、別次元の話ではないでしょうか。

沖縄語の次世代への継承は、共通語の下での継承ではなくて、沖縄語自体の継承でなければならぬと思います。汎用漢字は別として**翻訳書法は教育には適しません。**

同じ事情の書き方を幾つか例示します。

(1)「^{わらびぬくる}わらびぬくる」を翻訳書法で書いた例に「少年時代」があります。

沖縄語として独自に書けば「^{わらび くる}童ぬ頃」となります。

(2)「^{じんみ}じんみ」を翻訳書法で書いた例に「協議」があります。

沖縄語として独自に書けば「^{じんみ}吟味」となります。

(3)「^{ちゆ}ちゆらさん」を翻訳書法で書いた例に「美らさん」があります。

沖縄語として独自に書けば「^{ちゆ}清らさん」となります。

筆者の論文「沖縄語の学習のための漢字への仮名の振り方の事例集」(2007年9月2日)は、この種の例を集めたものです。

3、沖縄語普及協議会の教育方針

「予算案」を「じんぬくばいかた」と読ませるのは、同協議会の公刊書「沖縄ぬ暮らしと昔話」[5]頁の説明から、同協議会の教育方針と思われます。この方針では沖縄語を益々難しいものにし、重い学習負担と学力の低下を来たすと思います。

4、次世代に継承すべき沖縄語

第一は音声です。家庭や地域など、日々の生活の中で自然の短い言葉のやりとりが発点です。これに学習負担はありません。

第二は教育で、沖縄語の表記の仕方によっては、学習者に重い学習負担をかけ、学力の低下を来たす恐れがあります。もしそうなれば、沖縄語は再び過去のように有害視され、普及どころではなくなります。筆者が論文を書き続ける理由はここにあります。

沖縄語の教育は、文字の部分についていえば、学習負担を最小限に、そして学力の向上につながるような書法によるべきです。沖縄語はそういう書法で次世代に継承すべきです。そうすれば、かつて社会の表面で使われていた伝統的な生活語の復活を助け、しまくとぅばの新しい文化が到来します。

(参考1) 沖縄語とは

沖縄語であることの必須要件は、**助詞と用言の変化・活用が沖縄語の作法によっていること**です。名詞などの語源には関係ありません。できるだけ沖縄の伝統的な言葉を使うことが望ましいのですが、思いつかない場合は外来語を採り入れることもやむを得ません。沖縄語に採り入れた外来語は、沖縄語として扱われます。

例を示します。

ごーやーやん。・・・沖縄語(「やん」が沖縄語の用言)

ごーやーだ。・・・共通語。「ごーやー」は沖縄語の単語ですが、「だ」が共通語の用言ですから、この場合の「ごーやー」は共通語として扱い、「ごーやーだ。」は共通語文となります。

にがうりやたん。・・・沖縄語(「やたん」が沖縄語の用言)。「にがうり」は共通語の単語ですが、用言の「やたん」が沖縄語ですから、「にがうり」は沖縄語の扱いとなり「にがうりやたん。」は沖縄語文となります。

ごーやーだった。・・・共通語。「ごーやー」は沖縄語の単語ですが、「だった」が共通語の用言ですから、この場合の「ごーやー」は共通語として扱い、「ごーやーだった。」は共通語文となります。

ホテルへ行く。・・・共通語。「ホテル」は外来語ですが、共通語の中で使われるときは共通語として扱います。

ホテルんかい行ちゅん。・・・沖縄語(「んかい」は沖縄語の助詞、「行ちゅん」は沖縄語

の動詞。)「ホテル」は外来語ですが沖縄語の中で使われるときは沖縄語として扱います。「ホテルんかい行ちゅん。」は沖縄語文です。

go to hotel. . . . 英語

(参考2) 沖縄語の言語価値

上記の様式によって、沖縄語はすべてのことを表現することができます。これこそが沖縄語の真価です。もし、沖縄語なりに表現できないものがあれば、沖縄語は欠陥語となります。沖縄語は欠陥語ではありません。

沖縄語は王国時代、すべてのことが表現できました。その時代に生きなかった筆者がそれを断言するのは、もしそうでなければ当時の社会は成り立たなかった筈だからです。

沖縄語はすべてのことを表現できるというのは、筆者にその能力があるという意味ではありません。原理的にできるという意味です。

(参考3) 言語の発展

言葉は社会で使われて発展するものです。新しい言葉、言い回しなど、時と共に進化するものです。ところが沖縄語は明治の廃藩置県の後、進化が止まりました。それ以後も使われてはいますが先細りの状態で今日に至っています。次世代に残す沖縄語は、助詞と用言の変化と活用が発揮される形を基に、沖縄語自身の将来の発展につながるものでなければなりません。

沖縄語はかつて社会の表面の生活語(音声語)でした。現在でも生活語ですが、衰退の傾向にあって、これがかつての状況に戻そうというのが「しまくとぅばの日」の県条例の考え方です。共通語とは使い分けを上手にして共存できます。

(以上)

沖縄語に関する筆者の2007年以降の全論文はWeb上にあり
<http://www.wvq.jp/p/fpapers.html> から自由にダウンロードできます。

照会先：〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1

船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp